

平成 20 年度第 2 回協働指針懇話会要旨

【今回の議題】

小城市における協働の表現について 指針構成(案)について

小城市における“協働”の表現について

スローライフのテーマが“天山から有明海へ水つむぎ”とあり、協働は人と人とのネットワークが必要という観点から**助け合い**を新しい感覚で“**人つむぎ**”ではどうか?

“**加勢**”という表現は?

年齢により言葉の意味がわからなかったり、誰が誰に加勢するのか主体が分からなくいいように使われる可能性がある。

“**お互いの力を寄せ合う**”、“**みんなの思いを重ね合う。**”

“**住民自治を目指して**”、“**個から協働へ**”

指針構成(案)について

住民自治、市民憲章を重ね合わせて考えてみること。

言葉でやってみようという気持ちにさせるものであること。

活動に結びつくようなイメージづけを考えること。

一步踏み出してほしい方に、また無関心層を喚起するようなものであること。

市民と行政との意見交換では、“行政は、行政は”と言われる。

これは、それだけ地域課題があるということで、住民に自分たちでどうすべきか分かりやすい表現で示す必要がある。

地域の力でアイデアを出しながらやっていることを行政につなげられるように。

誰かがやるとかではなく、根気強くやる意識を地域に浸透させるものとなるように。

委員の意見としてこう
いうものができました。

< 関連事項 >

“協働”を推進するための具体的手法

共通の目的である CO2 削減や地域通貨等によるポイント制を行うことにより、自分が取り組んだことが目に見えるような形で表す。(お金や役務で還元)

ポイント制も分野を超えた取り組みが必要。(例)福祉のポイントを文化面に活用できたり。環境美化等について、中学校と連携する等身近にできることからやる。

形で表れることがいいアイデア。

リーダー養成は、指名して依頼の方が早い。

子ども達に触れさせることが一番いい。(小・中一貫でコミュニティづくりに参加しやすい方法でつくる。

小さな単位で取り組んでいくことが重要。

職員と市民の違う場面での出会いが必要。(職員のまちづくり活動参加等)

子ども達への声かけを行う。(子ども達に関心を持つ。)

みんなで集まれる何かを地域で行う。(粘り強くやる必要がある。)

活動している人同士の知る機会を創出する。

“協働”を啓発(市民、職員へ)するためのマーク化。(意志標示 そこから広がるつながり。)

思ったことは、伝える。

次頁をご覧ください。

事務局の意見として……

気づき等イメージが伝わるものとして、“行動指針”とし一歩進んだものとしてはどうか？
ポイント制については、目に見える形として具体的事業として掲げる。
話し合いに参加することも協働。
スタートは、あいさつ。